

夕刊 磐城新聞 行發日五十月九

磐城藝術「詩、力」

登美多美紗緒

詩の生命は、その作品がとである。今東京を中心と

一つの詩の中に盛り込まれた。詩話會が老朽してゐる

○上諏訪の町の夜に購ひし切花の水を夜半に

○開け放つ窓に入る蟲おびたし蒸し暑き室に

○湖のほとり鳥さかゆき夜をひと夜わが

○潮聲句會 第四十七集

○藏書萬巻に盈つと雖も徒に豪華のみ、善讀

拈華微笑 あえ、食道樂の 座頭の妻も泣いた

初秋 なかのひさを

信濃の旅 島田忠夫

潮聲句會 第四十七集

秀逸

七夕や色紙は間に吹かれ居り、

七夕や草家に星の降りそぐ

七夕や草家に星の降りそぐ

お蘭陀お蝶

お蘭陀お蝶

お蘭陀お蝶

お蘭陀お蝶

お蘭陀お蝶

お蘭陀お蝶

お蘭陀お蝶

お蘭陀お蝶

日本石油株式会社特約店

關影商店平支店

木村外科醫院

淋薬界の最高權威

別府皮膚薬

代理店 渡邊いと

梅月食堂

子供百日せいの 専門薬

神効散

増田耳鼻科醫院

川井内科診療所

度量衡 計量器

何が梅月をそうさせたか?

断然五分安割行

